

2025年新春宣伝
1月6日(月) 8:15 天王寺駅東口

2025年新春旗開き & 35周年記念のつどい
1月8日(水) 17:30 国労大阪会館 3階大会議室

大阪労連第57回評議員会
1月18日(土) 国労大阪会館 3階大会議室・1階ホール

一部10円 組合員の購読料は組合費に含まれています 1993年6月22日第三種郵便物認可

あ
ん
な
い

夢洲万博会場のメタンガス検出(2024年7月～8月)状況



▲続々と署名をしてくれる人が...

政府や大阪府・市や維新の会が「夢洲での万博」を強引にすすめて、開催の4月13日まで4か月ほどになりました。

万博中止を求める宣伝では、「今さらやめるのは無理でしょう」との声が増えてきましたが、同時に中止署名への協力も続いています。開幕がどれだけ近づいても、夢洲の危険性は全く取り除かれず、開幕すれば来場者の命を危険にさらすことになる状況は、今も変わっていません。

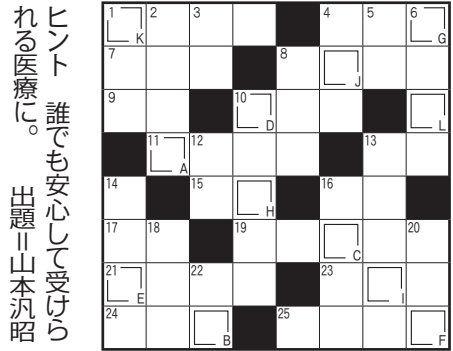
メタンガス爆発だけでなく、大規模災害時に最大23万人が夢洲に取り残され、脱出に最短で3日かかる想定されているのに、食料や毛布などの備蓄は15万人分もなく、電気もガスも止まる猛暑の中、食料も限られ、夢洲から避難できない状況が続いている。

このような命の危険がなくなる限り、警鐘を鳴らし続け、万博中止署名をもっともっと積み上げることが大切です。府民の反対の声を無視して、開催が強制されたとしても、来場者を危険にさらす政府、大阪府・市や維新の会の責任を追及し、夢洲の危険な実態を広く府民に知らせる行動を続けましょう。

命の危険があるかぎり万博中止!

ろーれん クロスワードパズル

【とき方】二重カッコをアルファベット順に並びかえてください。あらわれた言葉・成句・詩歌が答えです。一部の文字は濁点に読み替えてください。



ハガキまたはE-mailで〒・住所・氏名・組合名を必ず明記してください。
〈宛先〉〒530-0034 大阪市北区錦町2-2 国労大阪会館1F 大阪労連機関紙係
E-Mail: kikanshi@osaka-rouren.gr.jp
〈締切〉1月27日(月) (発表は2月号)
〈賞品〉正解者の中から抽選で10人に図書カードを贈ります

タテのカギ
1 耳を強くぶたれてゝが破れた
2 入荷の対
3 乗缶から勢いよく〇〇が出てくる
4 背を伸ばしてつま先で立つこと
5 そのままの状態を保つこと。治安〇〇、現状〇〇
6 最初の戦い。第一戦
7 一家の運命。ゝが傾く
8 耳が遠くなったので〇〇
9 英語でshe
10 赤い〇〇はいたた女の子
11 ほめて与える物。こ〇〇だよ
12 物を貸して取る料金

ヨコのカギ
1 固執のコンソの他の読み方
2 生き死に。ゝをかけた闘い
3 目に汗やゴミが入るのを防ぐ役目もしている
4 西嶋紗永(府職労)、穴井啓美(守口市職労)、羽根田好司(寝屋川市職労)、町原早苗(東大阪市職労)、野村清子(全労働大阪基準支部補償分会)、西岡遥(大教組)、西田奈緒子(淀川医療労組)、山崎真生(おおさかパルコプ労組)、福地剛(全港湾阪神支部)、伊川文子(地域労組河南)



©2012 榎木麻子/新潮社



©1998 高井康隆/新潮社 ©2023 TEKINOMIKATA

「私にふさわしいホテル」の原作は、文壇を舞台に不遇な新人作家の逆襲を描いた榎木麻子の作品です。

受賞した新人賞作品を酷評され、単行本も出ない不遇な新人作家中島加代子(のん)と加代子の先輩で編集者の遠藤(田中圭)は、酷評した大物作家の東十条宗典(滝藤賢二)に仕返しをします。

そして、文壇への返り咲きを狙う加代子と彼女を恨む東十条の因縁の対決は、予測不能な方向へと突き進んでいきます。

田中みな美、服部樹咲、高石あかり、橋本愛が共演。年末年始に力を抜いて観に行ってください。舞台の「山の上ホテル」は、老朽化を理由に今年2月に休館となりましたが、11月に明治大学が購入を発表し、外観は

維持しつつ改修工事を施し、ホテル機能を継続するとしています。12月27日より全国劇場公開。

「敵」の主人公、渡辺儀助(長塚京三)は、妻と死別し一人暮らし、大学教授を10年前に辞め、祖父の代から続く日本家庭に住んでいます。食事は自炊し、時には気の置けない友人と酒を酌み交わし、教子を招いてディナーも振る舞っています。預貯金があつた何年持つか、何年生きられるかを計算しながら、日常は平和に穏やかな日々を過ごしていました。しかし、ある日、書斎にある儀助のパソコンの画面に「敵がやって来る」と不穏なメッセージが...

12年ぶりの主役を長塚京三が演じ、瀧内公美、河合優実、黒沢あすか、松尾諭、松尾貴史などが脇を固めます。原作は筒井康隆の作品で、モノクロ画像が人間の本性を炙り出すかのように面白く描いています。

1月17日より全国劇場公開。

好クリーン

「私にふさわしいホテル」の原作は、文壇を舞台に不遇な新人作家の逆襲を描いた榎木麻子の作品です。

受賞した新人賞作品を酷評され、単行本も出ない不遇な新人作家中島加代子(のん)と加代子の先輩で編集者の遠藤(田中圭)は、酷評した大物作家の東十条宗典(滝藤賢二)に仕返しをします。

そして、文壇への返り咲きを狙う加代子と彼女を恨む東十条の因縁の対決は、予測不能な方向へと突き進んでいきます。

田中みな美、服部樹咲、高石あかり、橋本愛が共演。年末年始に力を抜いて観に行ってください。舞台の「山の上ホテル」は、老朽化を理由に今年2月に休館となりましたが、11月に明治大学が購入を発表し、外観は

維持しつつ改修工事を施し、ホテル機能を継続するとしています。12月27日より全国劇場公開。

「敵」の主人公、渡辺儀助(長塚京三)は、妻と死別し一人暮らし、大学教授を10年前に辞め、祖父の代から続く日本家庭に住んでいます。食事は自炊し、時には気の置けない友人と酒を酌み交わし、教子を招いてディナーも振る舞っています。預貯金があつた何年持つか、何年生きられるかを計算しながら、日常は平和に穏やかな日々を過ごしていました。しかし、ある日、書斎にある儀助のパソコンの画面に「敵がやって来る」と不穏なメッセージが...

12年ぶりの主役を長塚京三が演じ、瀧内公美、河合優実、黒沢あすか、松尾諭、松尾貴史などが脇を固めます。原作は筒井康隆の作品で、モノクロ画像が人間の本性を炙り出すかのように面白く描いています。

1月17日より全国劇場公開。

どっと来む 163 “入ってて良かった”投稿の紹介

私は6月に不注意にも自転車で転倒し左膝骨折しました。入院、手術、リハビリとかれこれ3か月経過しようとしています。思いもかけない事故により、入院の諸費用や治療費など、予定外の出費にみまわれる事となり、パートの収入も途絶えてしまいました。そんな時、ふと思いついたのが、担当者から勧められた共済です。忘れられているほどの「小さな掛金」でした。問い合わせをすると「チラシ」を送ってくれました。それを見るときさかの「大きな保障」でした。

私の場合は、なんと年間6,000円(10口)の掛金で「1日の入院保障」が初日から15,000円の保障でした。横で聞いていた娘も驚いて「こんな保障あらへん」「すごい保障だ」と言いつつ「共済に私も加入しよう。ついでに息子にも加入をすすめる」と2人の組合員も増えることになりました。「ひょうたんから駒」痛いひょうたんでしたが、うれしいことにつながりました。共済への加入を万が一のため心よりお勧めします。

大阪年金者組合豊中支部 Mさん (交通災害共済10口加入・月掛金500円)

※実際に周りのの方々に加入をすすめていただいています。この度は自家の火災共済に加入していただきました。